

発表題目：SNS 空間におけるウォロフ語と「民族」の再創造

所属： 京都大学アフリカ地域研究資料センター

氏名： 池邊智基

1200 字程度で発表内容を記載してください。

本発表では、セネガル共和国におけるスマートフォン（以下、スマホ）の普及によって、2010 年代後半より新たに創出されたインターネット上の言論空間において、民族共通語ウォロフ語の社会的布置とウォロフ「民族」に関する言説空間の形成について論じる。

セネガルには 20 程度の民族語が存在しており、そのうち国民の約 4 割を占めるウォロフ民族のウォロフ語は、政治経済的な重要性からセネガルの民族共通語となっている。セネガルは植民地統治によってフランス語が学校教育で教えられる公用語となっている一方、国民の 9 割以上はウォロフ語を日常会話に用いている。さらにセネガル国民の約 9 割以上はムスリムであり、教義の伝達にはアラビア語とウォロフ語で精緻化させてきた。このように、政治経済や社会、宗教など、さまざまな側面でウォロフ語がセネガルで広く利用されている。なお、固有の文字を持たなかったウォロフ語は、1970 年代に政府によってラテン文字書記法が定められ、言語政策や文学運動によってウォロフ語の書記言語化が幾度も試みられてきたものの、国民全体に向けた正書法の普及は実現されてこなかった。

近年、セネガルにおけるスマホと SNS の爆発的普及とともに、Facebook や Twitter でのウォロフ語表記による投稿が急増している。この現象の中で、ウォロフ語の正しい書き方や語彙の選択が SNS 空間において議論を形成しており、同時にセネガルの歴史やイスラームの教義をウォロフ語正書法で発信するという「ウォロフ語純化運動」とも呼ぶべき現象も起きている。それと同時に、SNS において「民族」としてのウォロフについてポスト植民地主義とナショナリズムが入り混じった言説が形成されている。こうした民族主義的な言説は、植民地期から主にフランス人によって進められてきた民族学や言語学、人類学の研究から、独立期に盛んになったセネガル人エリートによるネグリチュード思想などを基にしている。特に、セネガル人研究者シェーフ・アンタ・ジョップによるウォロフ語の書記法や教育言語としての利用法や、ウォロフ民族のエジプト文明起源説が広く拡散されている。現在までの歴史学や言語学、人類学などの研究を踏まえればこうした言説は非常に粗雑な歴史認識も含む。しかし、セネガルにおけるスマホの爆発的な普及は、それらの内容を短文で記述し拡散することを容易にし、大衆化した歴史的言説および民族主義的言説を形成していると言える。つまり、文字言語としてのウォロフ語書記法の普及と、ウォロフ民族の「伝統」を再創造する運動が、スマホと SNS によって同時並行で加速しているのである。

本発表では、2021 年から 2022 年の約 1 年半の間で申請者がセネガルにおいて収集した事例をもとに、セネガルにおけるスマホの普及とインターネットアクセスの変容を通じて、セネガルにおける民族主義の形成とウォロフ語の社会的布置の拡大を論じる。